

県内景気動向調査 報告書

2023年2月

遠田商工会

<目次>

第1部：県内の景気動向

①経済動向

- 1-1. 鉱工業生産指数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 1-2. 新設住宅着工戸数（指数）
- 1-3. 公共工事請負金額（指数）・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 1-4. 百貨店・スーパー販売額（指数）
- 1-5. 有効求人倍率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 1-6. 新規求人倍率

②企業景気動向

- 2-1. 業況判断 DI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2-2. 売上 DI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2-3. 採算 DI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第2部：商圈内の消費購買動向

①消費者の買い物先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

②買い物先の店舗形態・立地場所

- 1-1. 最寄品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 1-2. 買回品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 1-3. サービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

③買い物先の選択理由

- 2-1. 食料品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 2-2. 日用雑貨品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 2-3. 衣料品

第3部：遠田商工会管内の観光動向

①遠田管内の宿泊観光者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

②遠田管内の主要観光スポット入込者数

<本報告書における指数の計算方法について>

①以下の指数は、平成 27 年の数値を 100 とし、季節変動調整済。

【計算式】

出典統計表の計算方法による

【対象】

1 - 1. 鉱工業生産指数

②以下の指数は、本報告書において経年比較をしやすいするために正規化を図っている。正規化の方法は、平成 29 年の数値を 100 として下記の計算式にて計算。なお、季節変動は未調整。

【計算式】

平成 29 年全体の実数 ÷ 12 …… A

計算対象年月の実数 …… B

指数 = $B \div A \times 100$

【対象】

1 - 2. 新設住宅着工戸数 (指数)

1 - 3. 公共工事請負金額 (指数)

1 - 4. 百貨店・スーパー販売額 (指数)

<本報告書における DI の計算方法について>

DI は各出典統計表の計算方法による。

<各種統計値の更新間隔について>

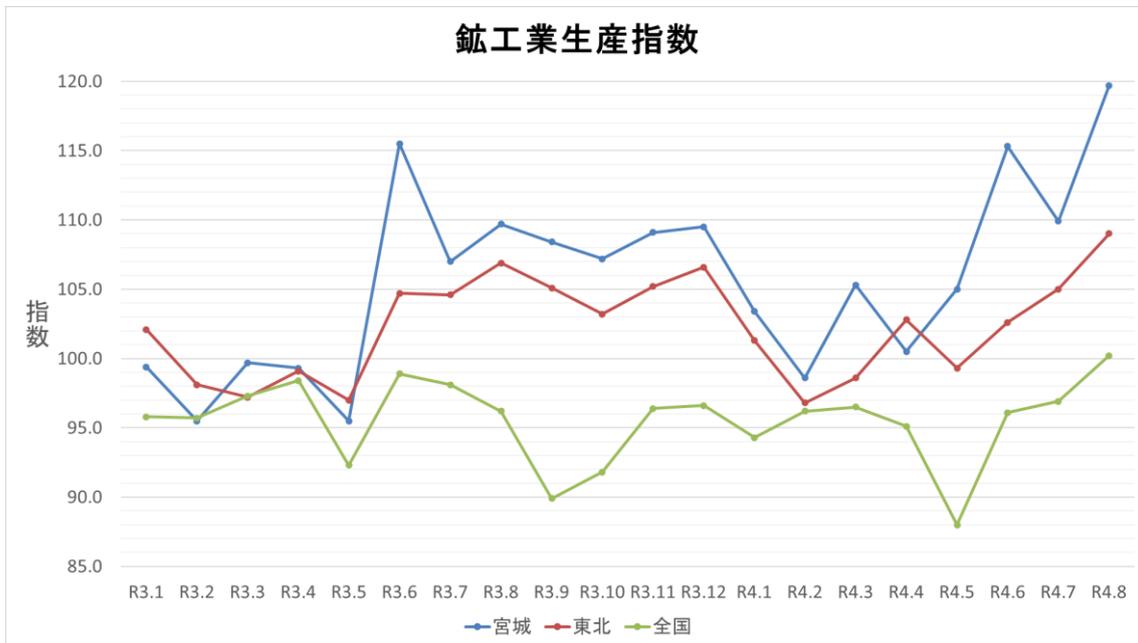
本文書で使用する統計値は、四半期単位での比較が可能になるよう、更新間隔が月単位及び四半期単位のを主に使用する。

第1部 県内の景気動向

(出典：みやぎ経済月報)

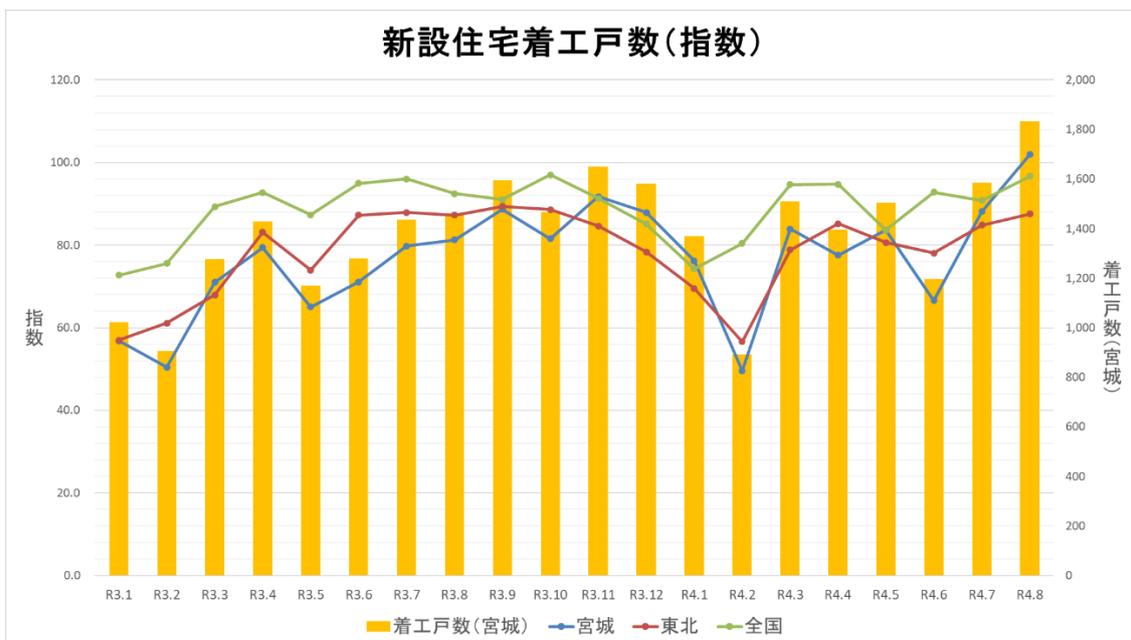
①経済動向

1-1. 鉱工業生産指数



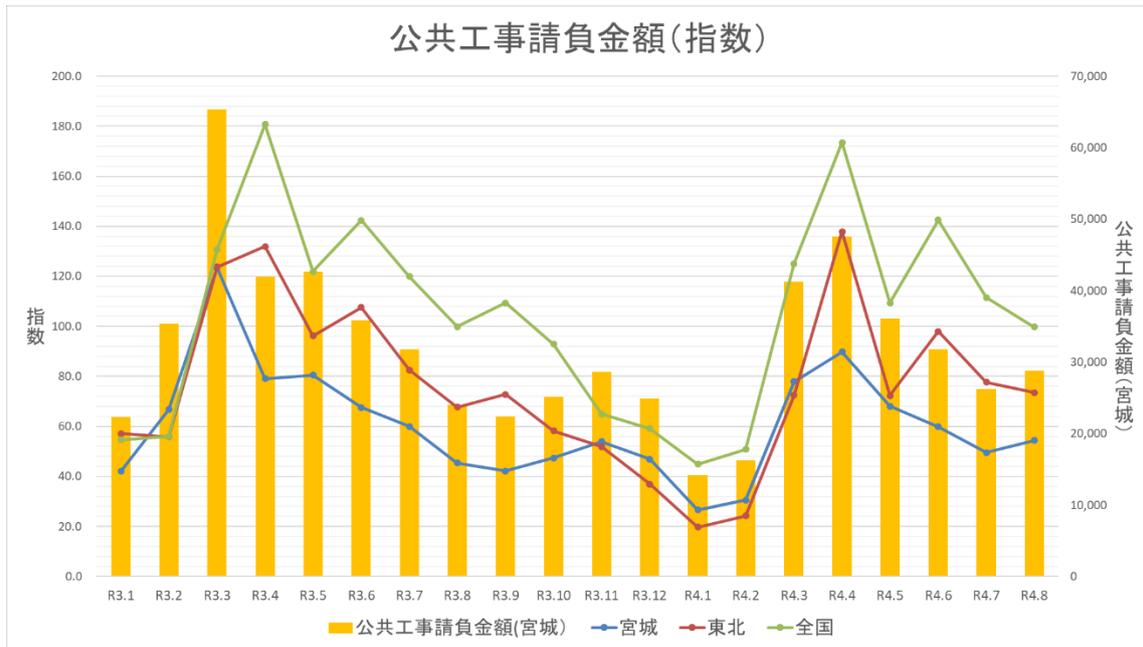
鉱工業生産指数は、波はあるものの、増加傾向にあることがわかる。

1-2. 新設住宅着工戸数 (指数)



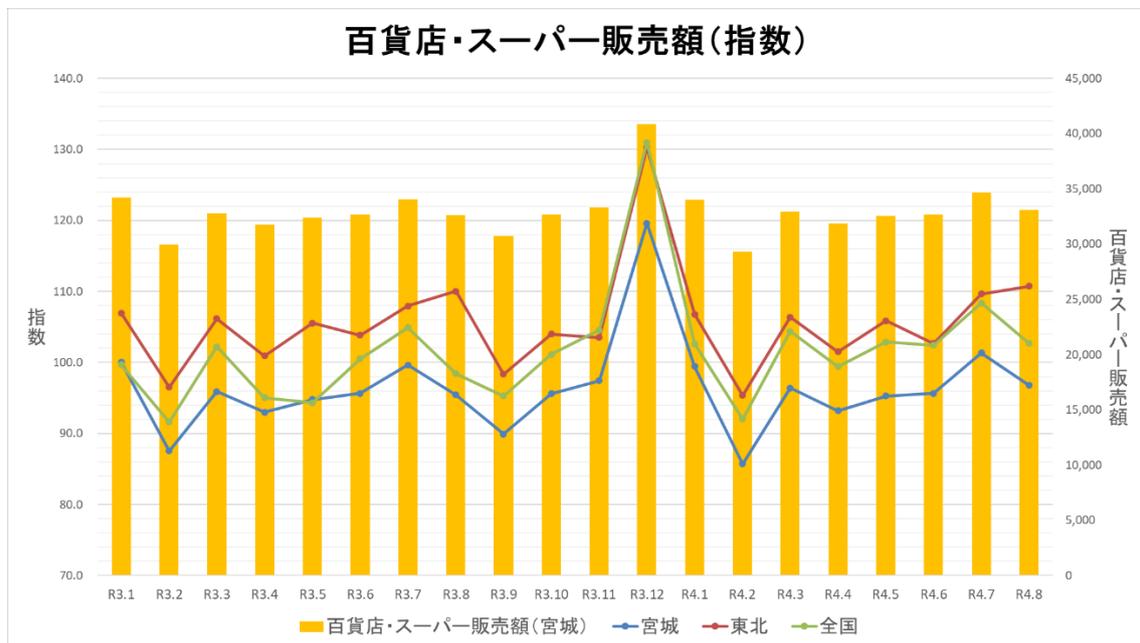
新設住宅着工戸数については、指数は宮城、東北共に全国の数値を下回っており、宮城の着工戸数はやや減少傾向にある。

1-3. 公共工事請負金額（指数）



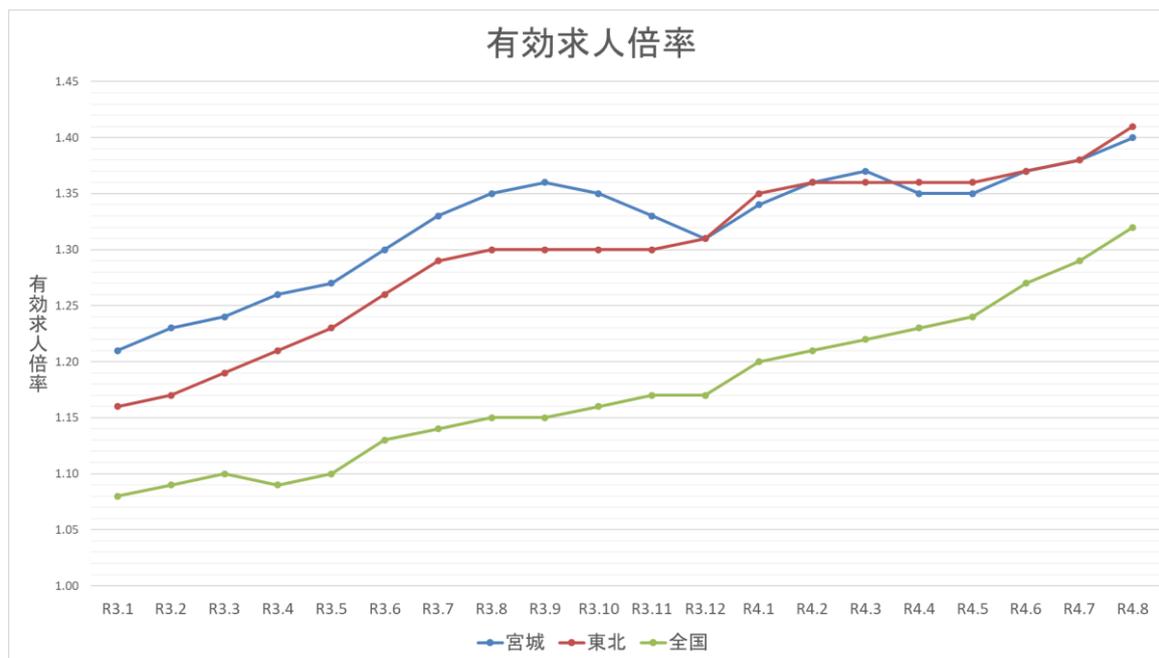
公共工事請負額については、全国的には上昇傾向であるが、宮城はやや下向きとなっている。

1-4. 百貨店・スーパー販売額（指数）



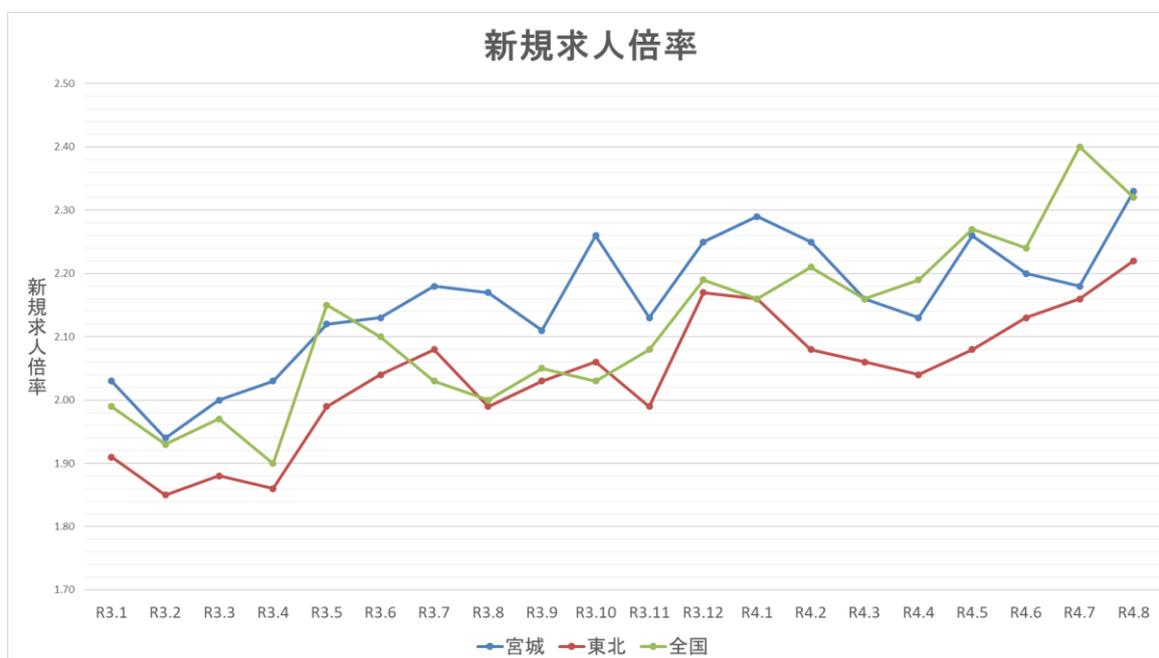
百貨店・スーパー販売額については、令和3年の12月にそれぞれ上昇傾向がみられるが、全国、東北、宮城ともにほぼ同じ推移となっている。

1-5. 有効求人倍率



有効求人倍率については、新型コロナウイルス感染症が流行り始めたころは下降していたが、その後少しずつではあるが上昇傾向にある。

1-6. 新規求人倍率

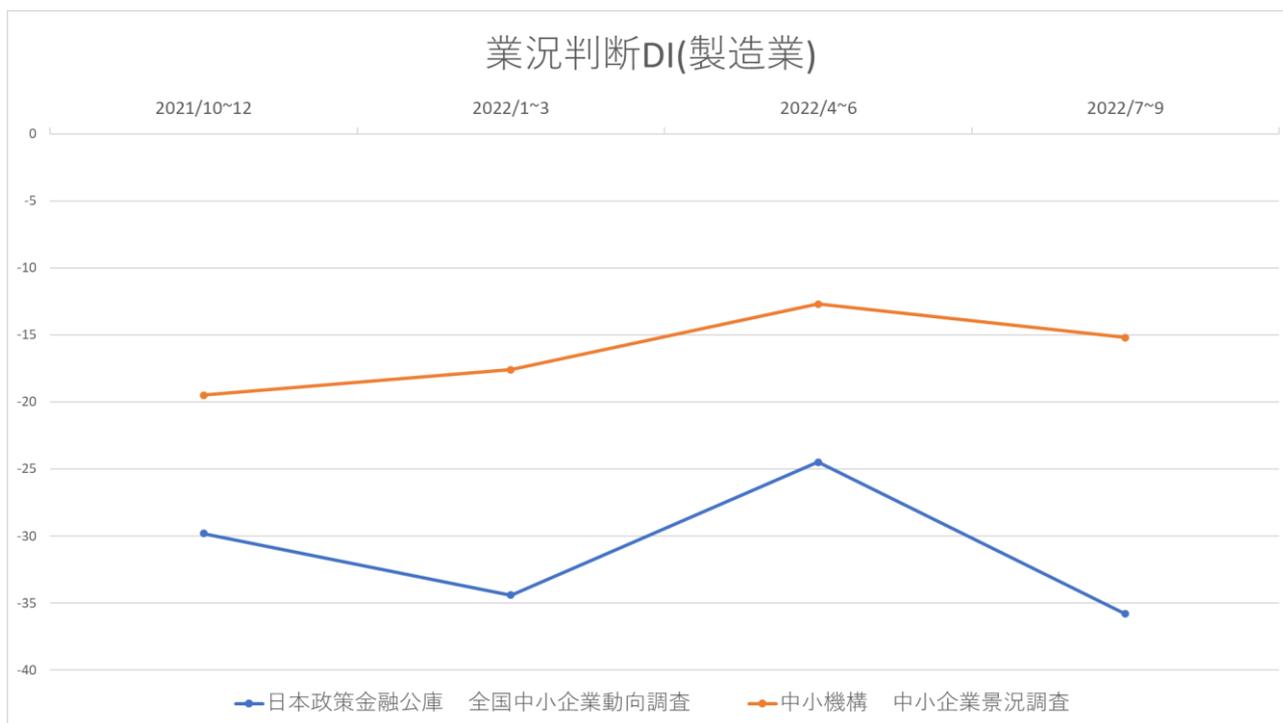


新規求人倍率については、有効求人倍率同様新型コロナウイルス感染症が流行り始めたころは下降していたが、その後少しずつではあるが上昇傾向にある。

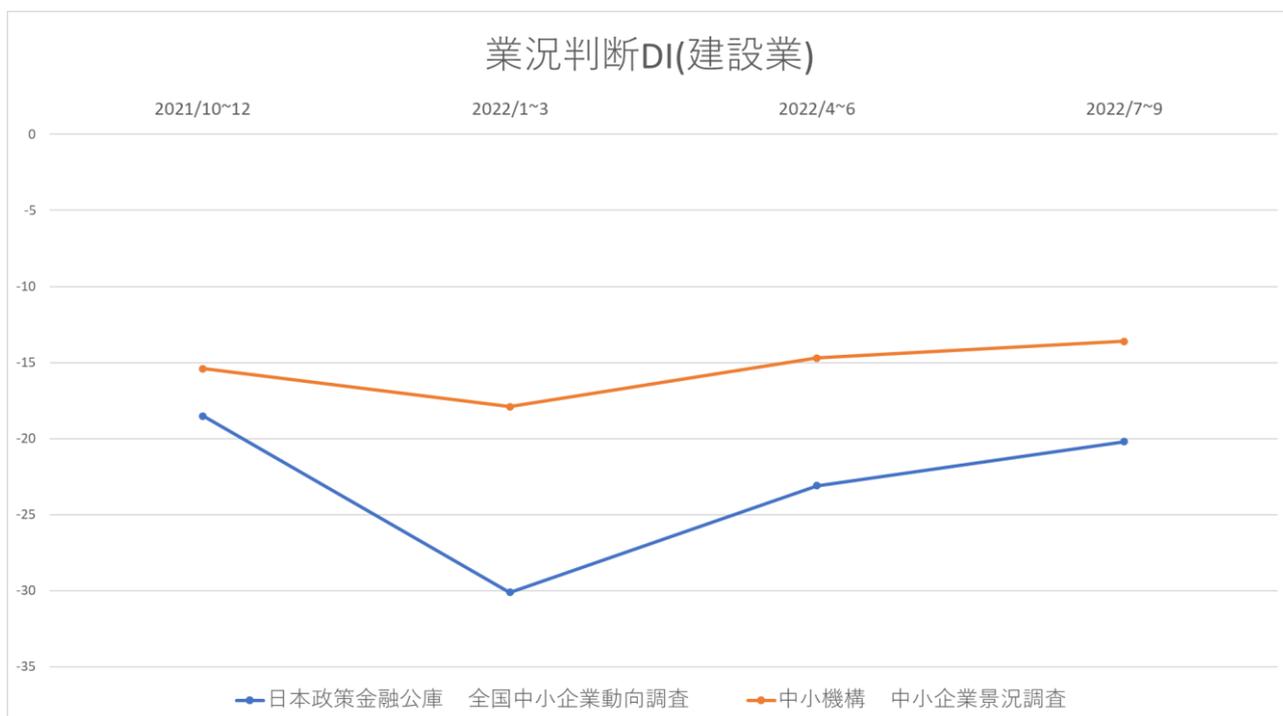
②企業景気動向

(出典：日本政策金融公庫 全国中小企業動向調査、中小機構 中小企業景況調査)

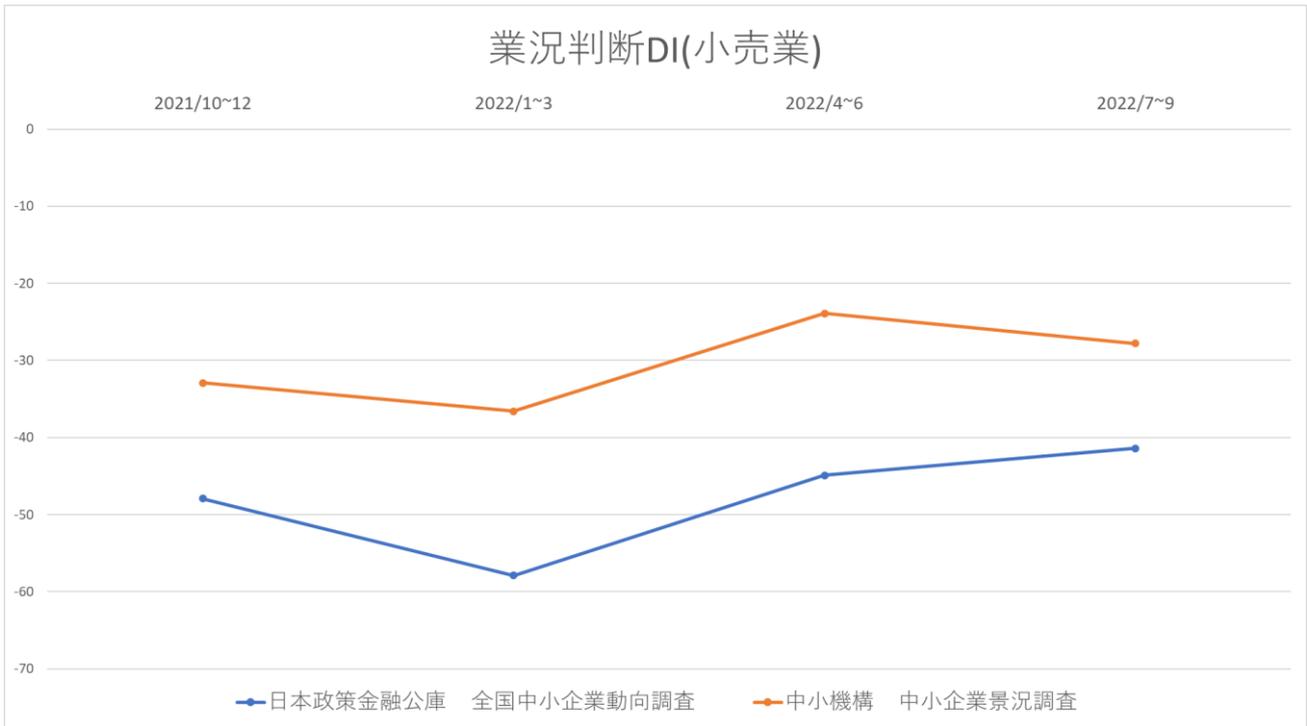
2-1. 業況判断DI



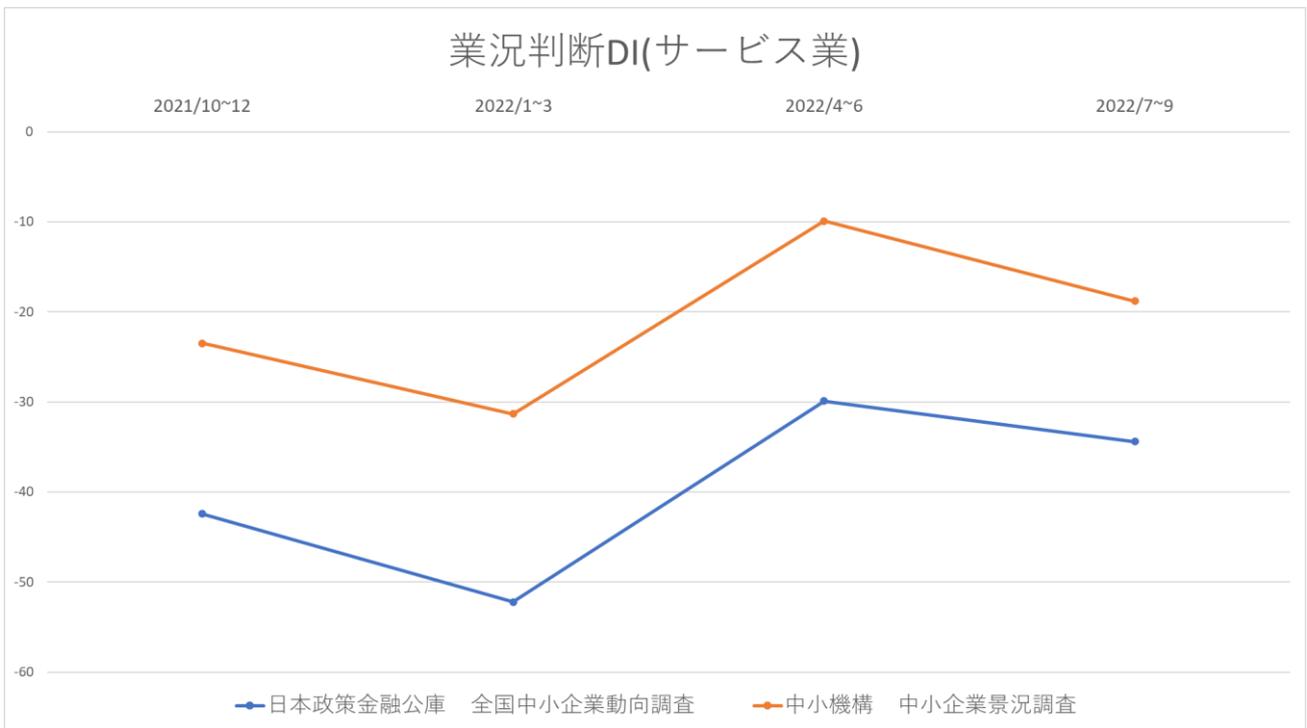
製造業においては、2022年1~3月から4月~6月にかけて回復傾向になったが、その後は低下している。



建設業においては、2022年に入ってから数値が上昇しており、回復傾向にある。

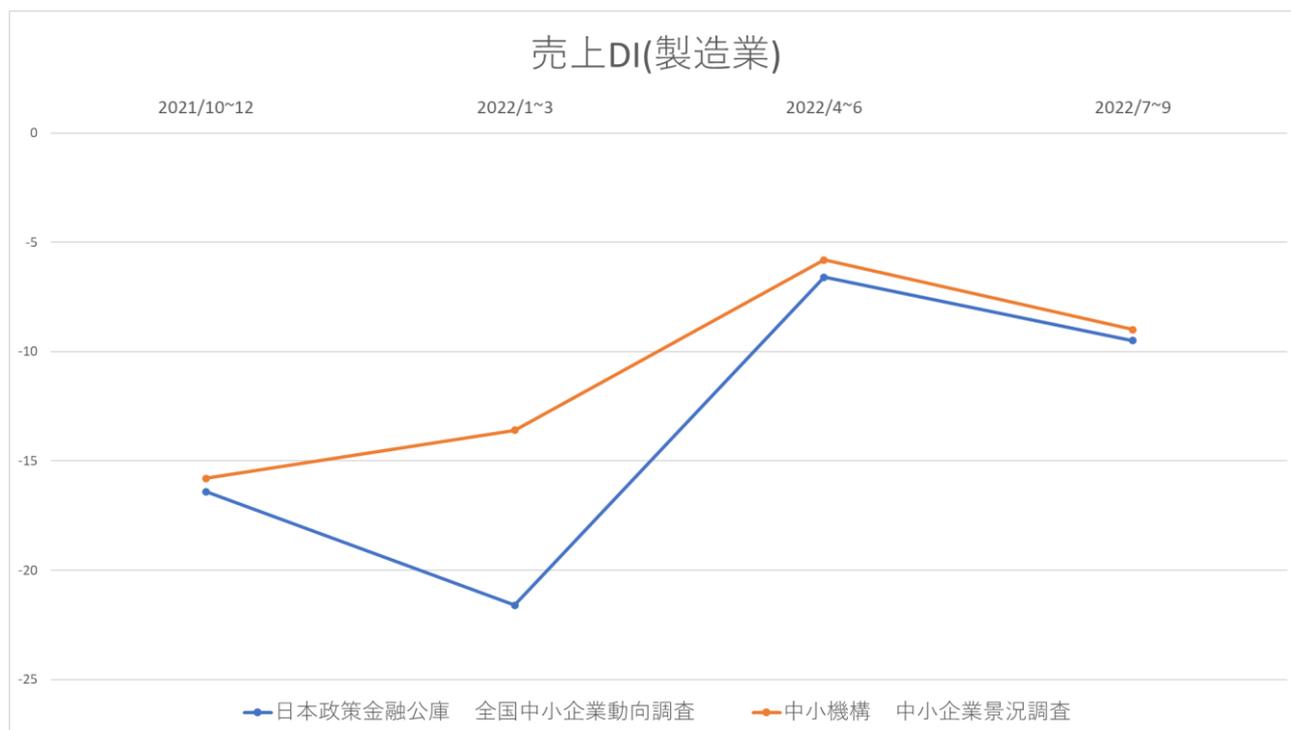


小売業においては、変化はあるものの、その変化は急激なものではなく、横ばいに近いものとなっている。

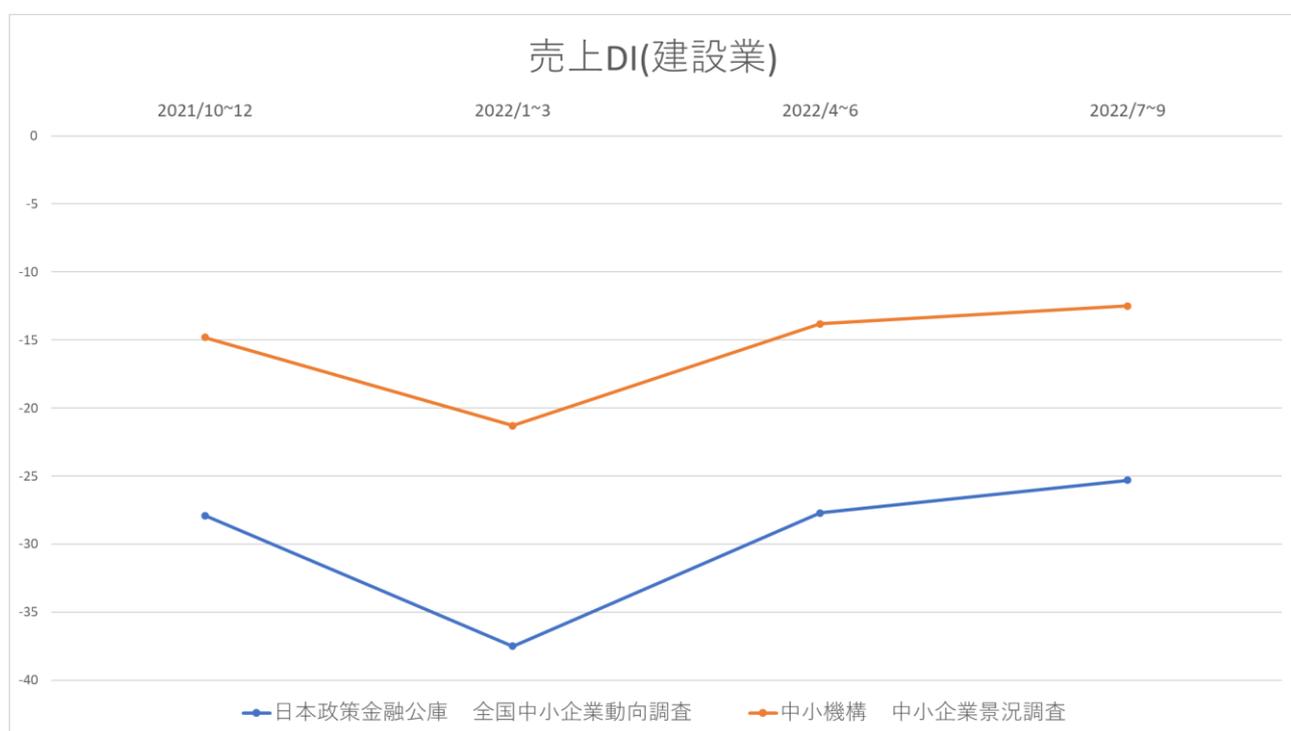


サービス業においては、2022年1~3月から4月~6月にかけて回復傾向になったが、その後は低下している。

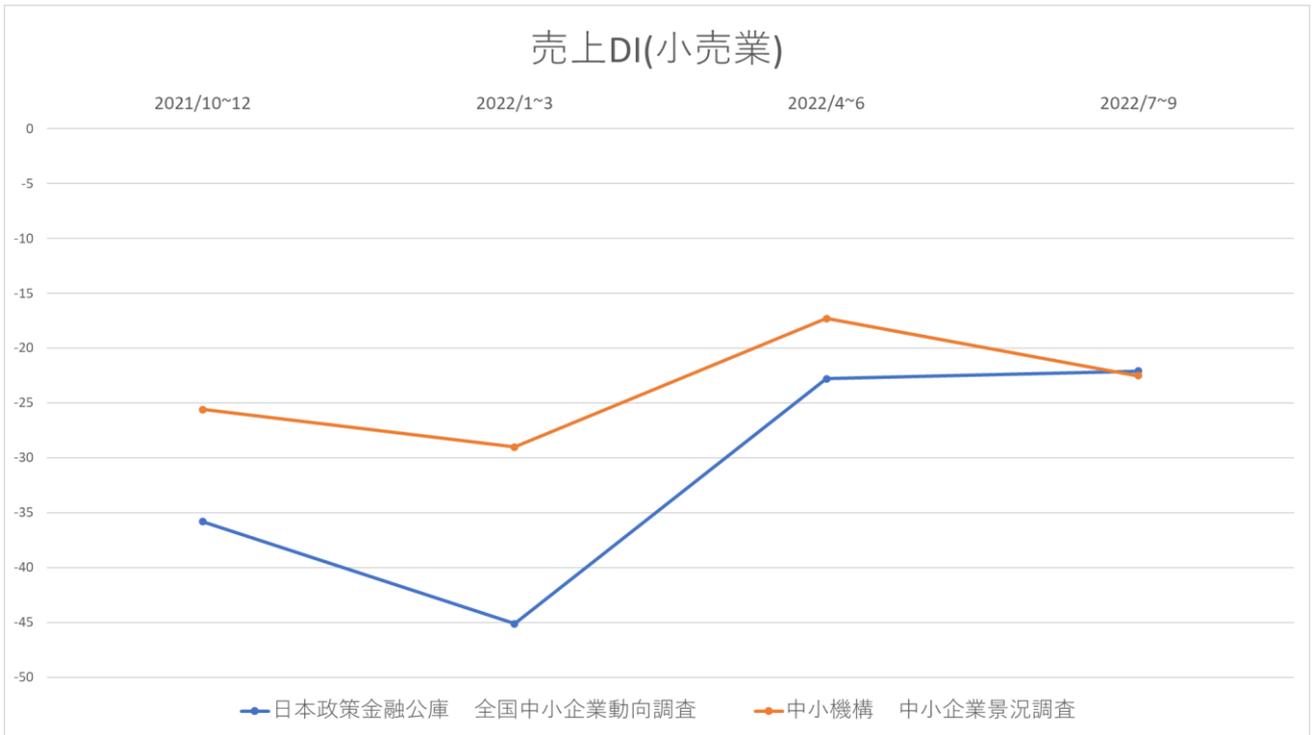
2-2. 売上DI



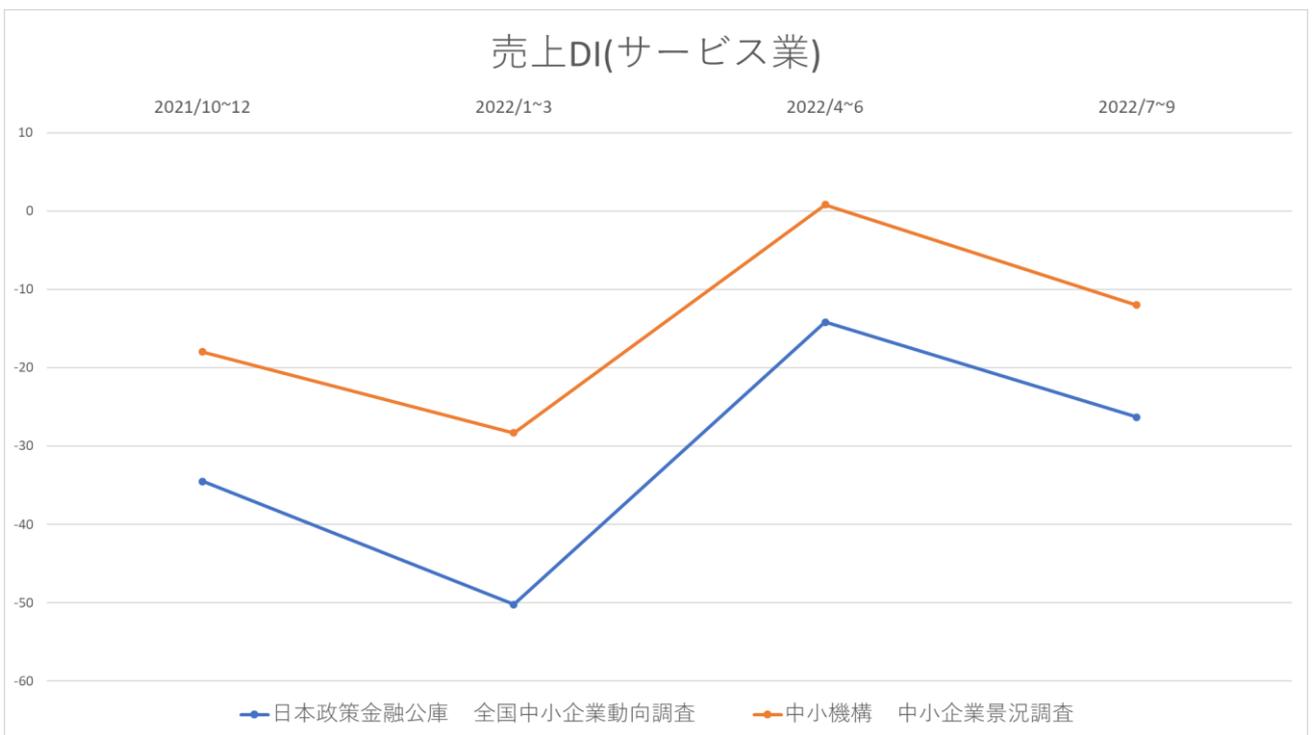
製造業においては、売上が上昇傾向にあったが、直近ではやや低下している。



建設業においては、緩やかではあるが、売上が上昇してきている兆しがある。

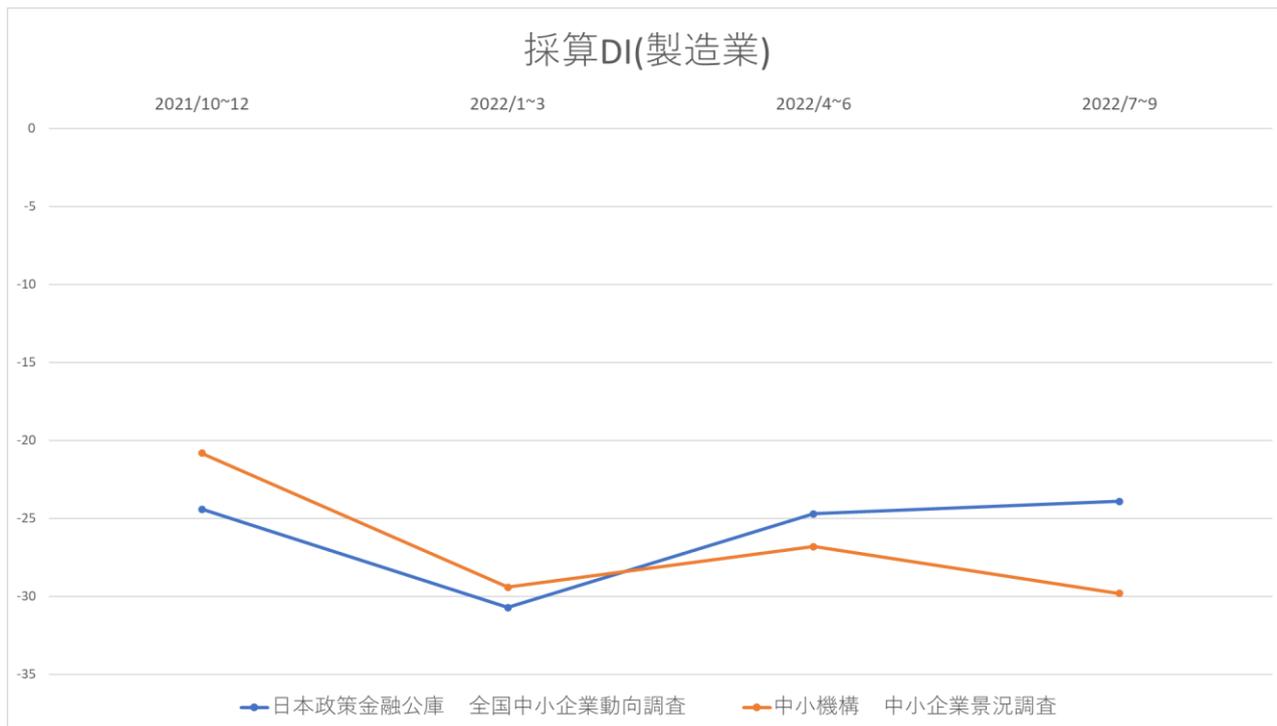


小売業においては、売上が上向きになり、その後はやや横ばいとなっている。

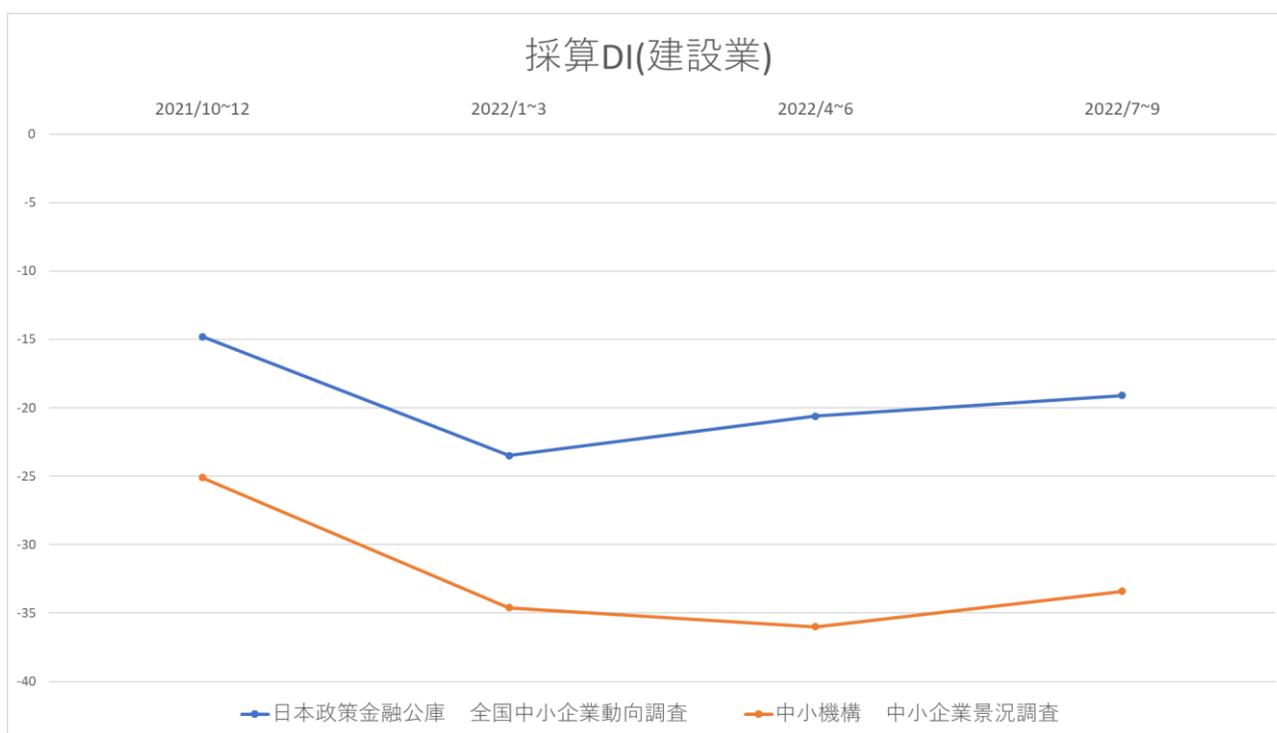


サービス業においては、一時期回復傾向にあったが、その後はやや低下してきている。

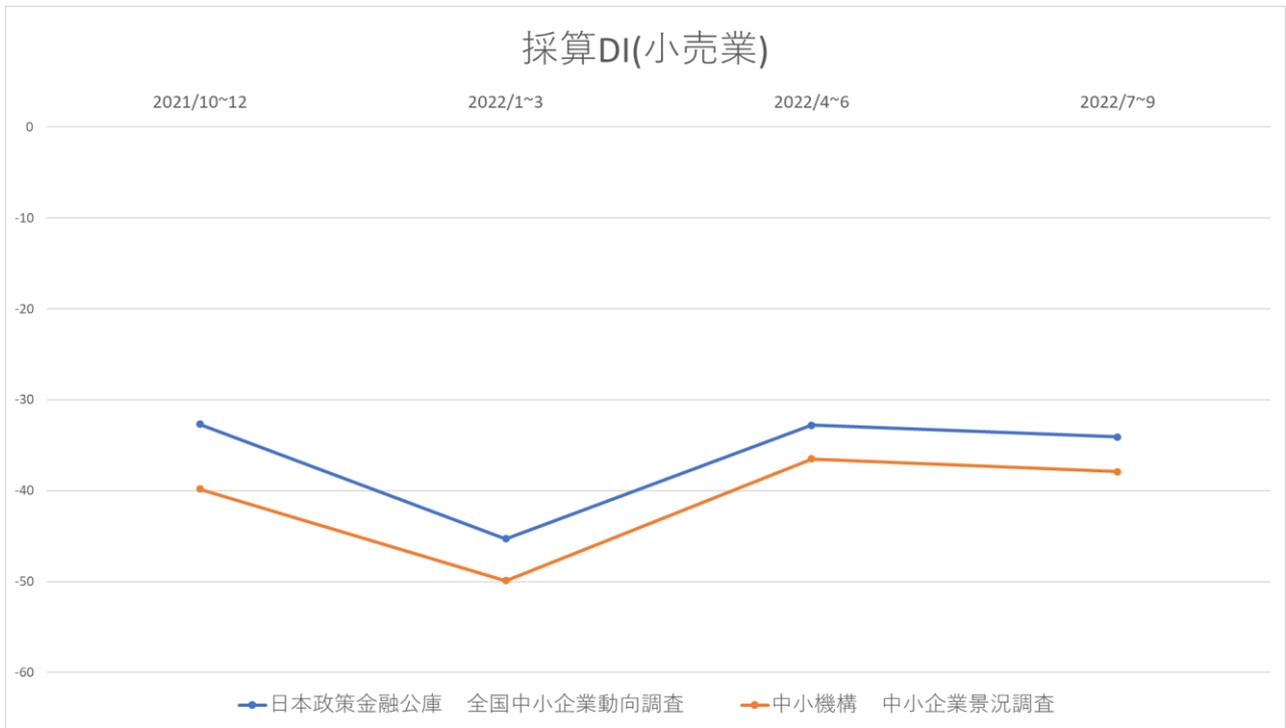
2-3. 採算DI



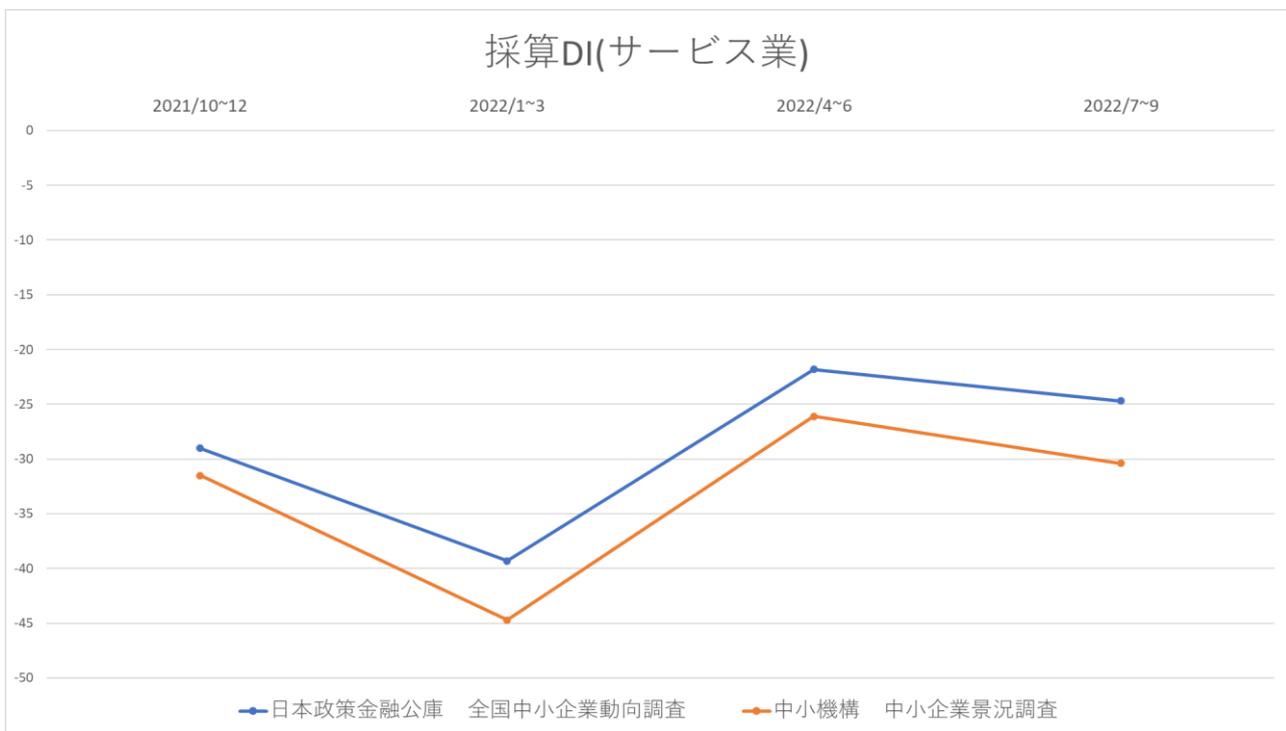
製造業においては、低い水準の中で横ばいの流れとなっている。



建設業においては、数値が低下し、その後横ばいとなっている。



小売業においては、やや良化してきた後、ほぼ横ばいとなっている。

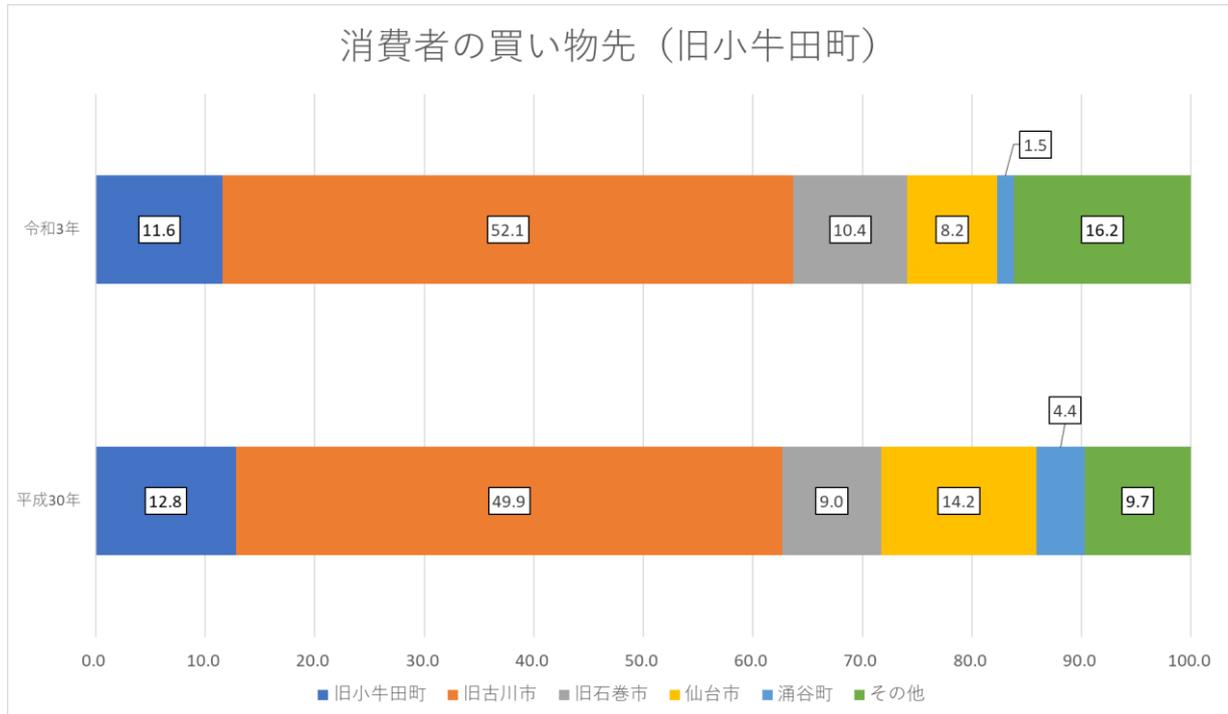


サービス業においては、回復してきた後、その後は横ばいで推移している。

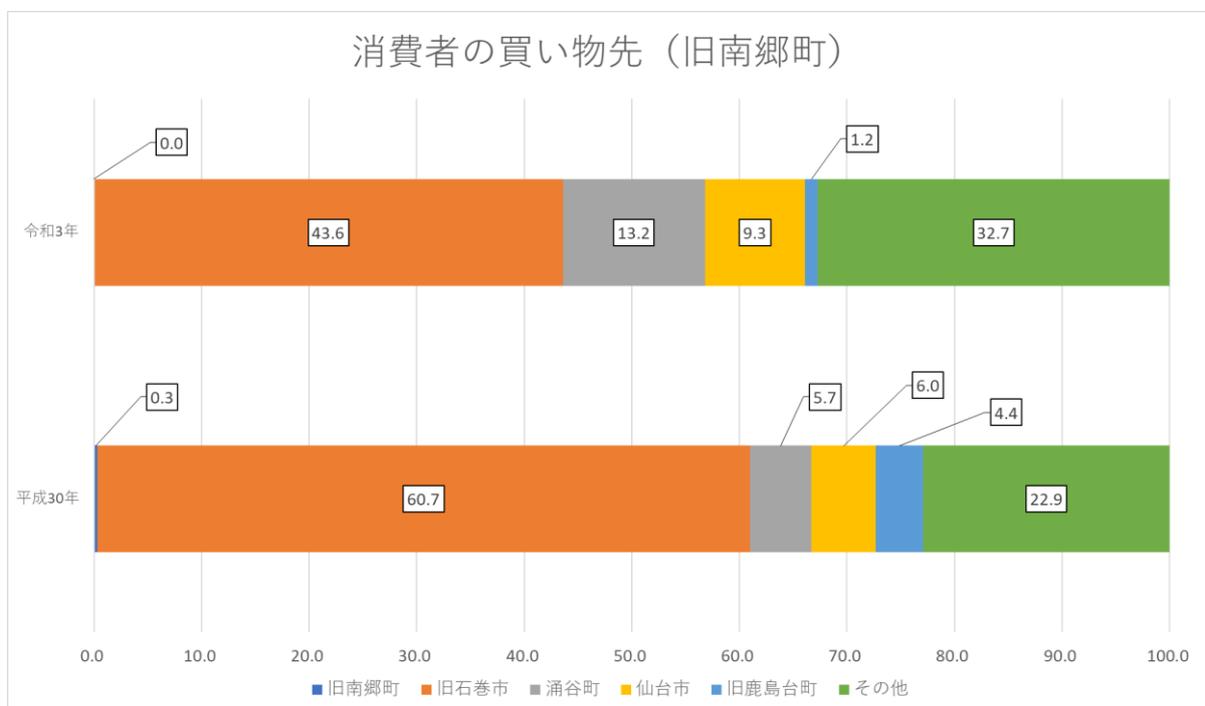
第2部：商圈内の消費購買動向

(出典：宮城県の商圈 消費購買動向調査報告書)

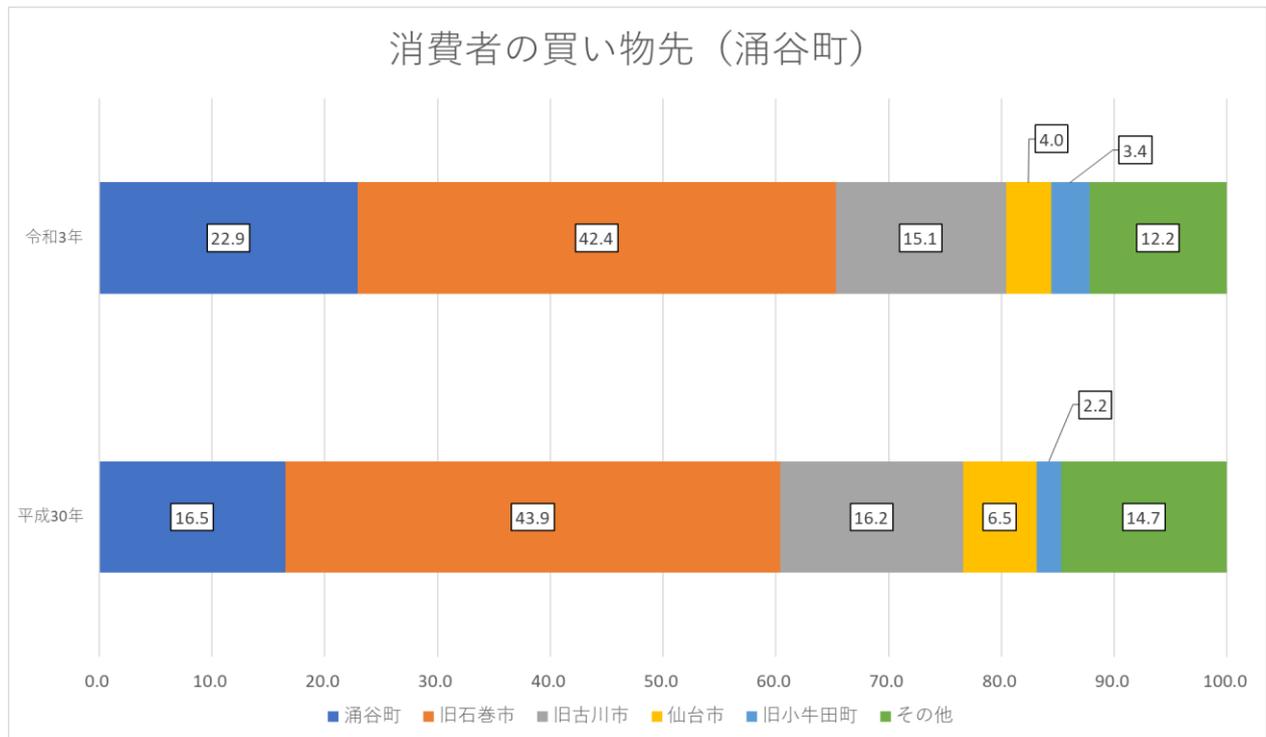
①消費者の買い物先



旧小牛田町エリアにおいては、旧古川市エリアが買い物先としておよそ半数を占めており、地元の割合が約1割程度となっている。



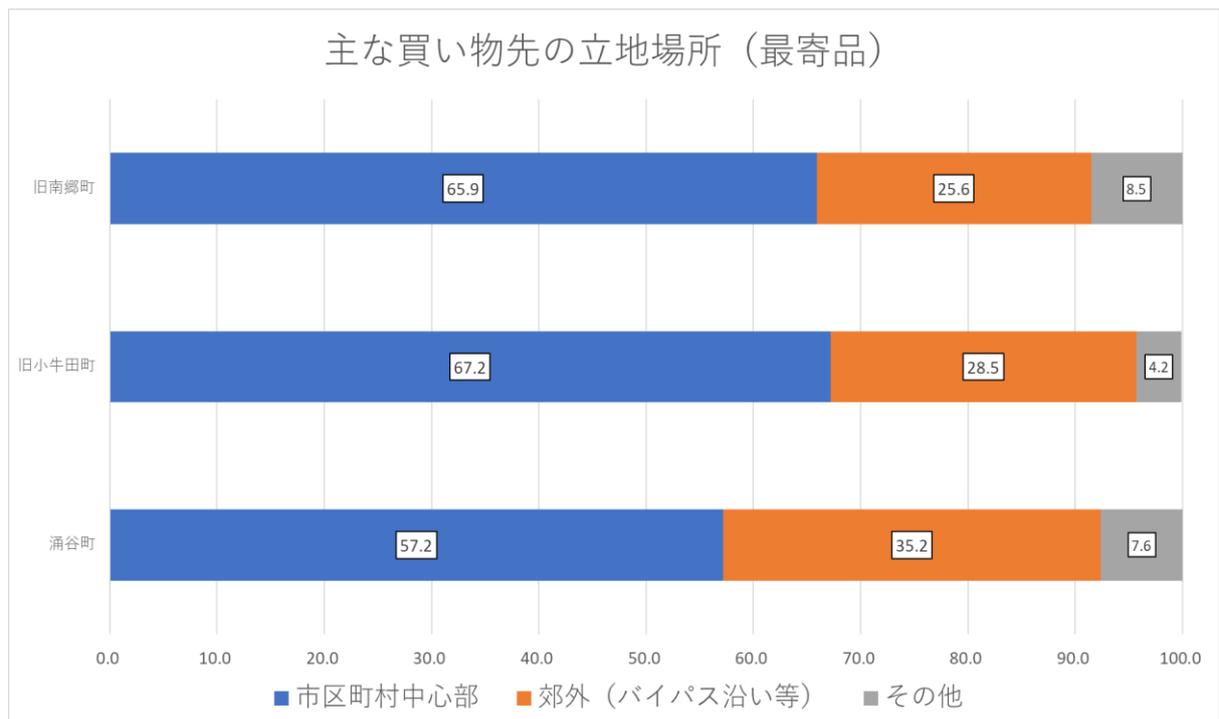
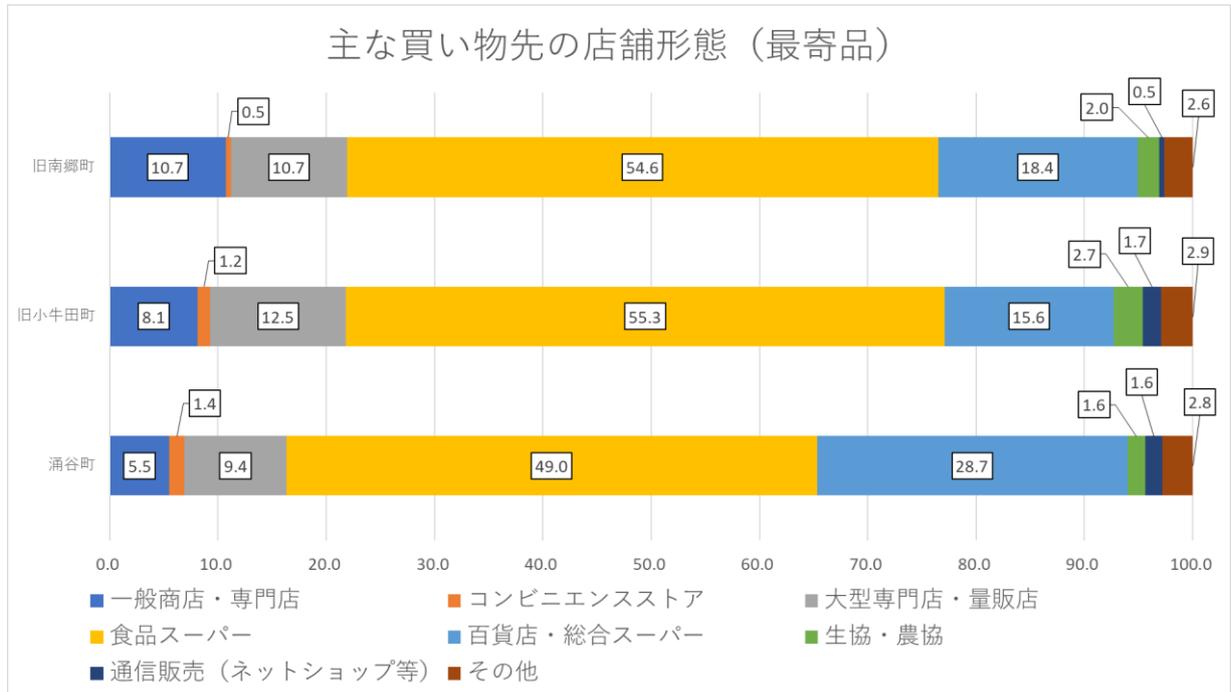
旧南郷町エリアにおいては、地元で買い物をする人がほとんどおらず、旧石巻市エリアをはじめ、町外で買い物をする人がほとんどとなっている。



旧涌谷町エリアにおいては、地元で買い物する人も一定数いる一方で、旧石巻市が主な買い物先となっている。

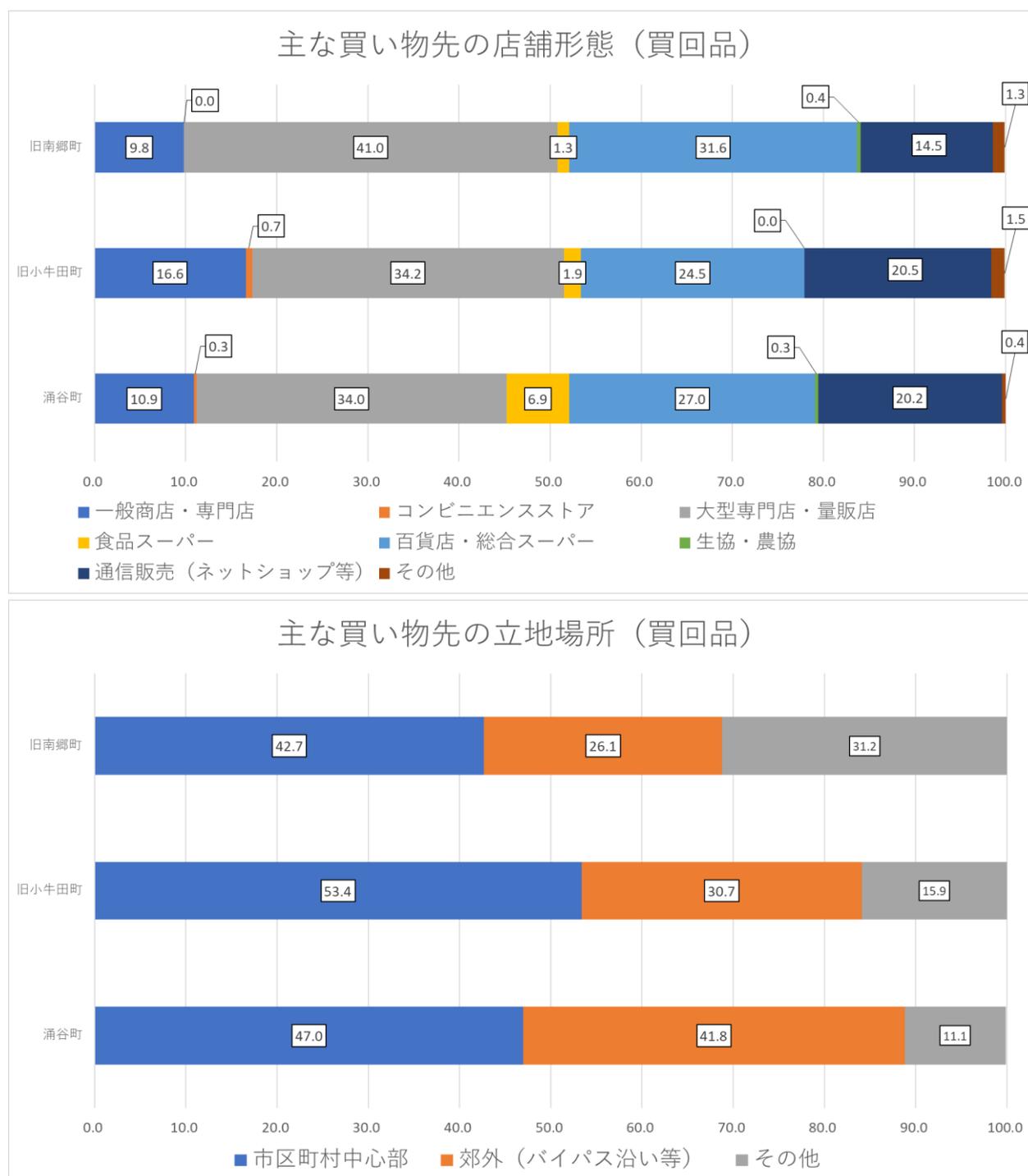
②買い物先の店舗形態・立地場所

1-1. 最寄品



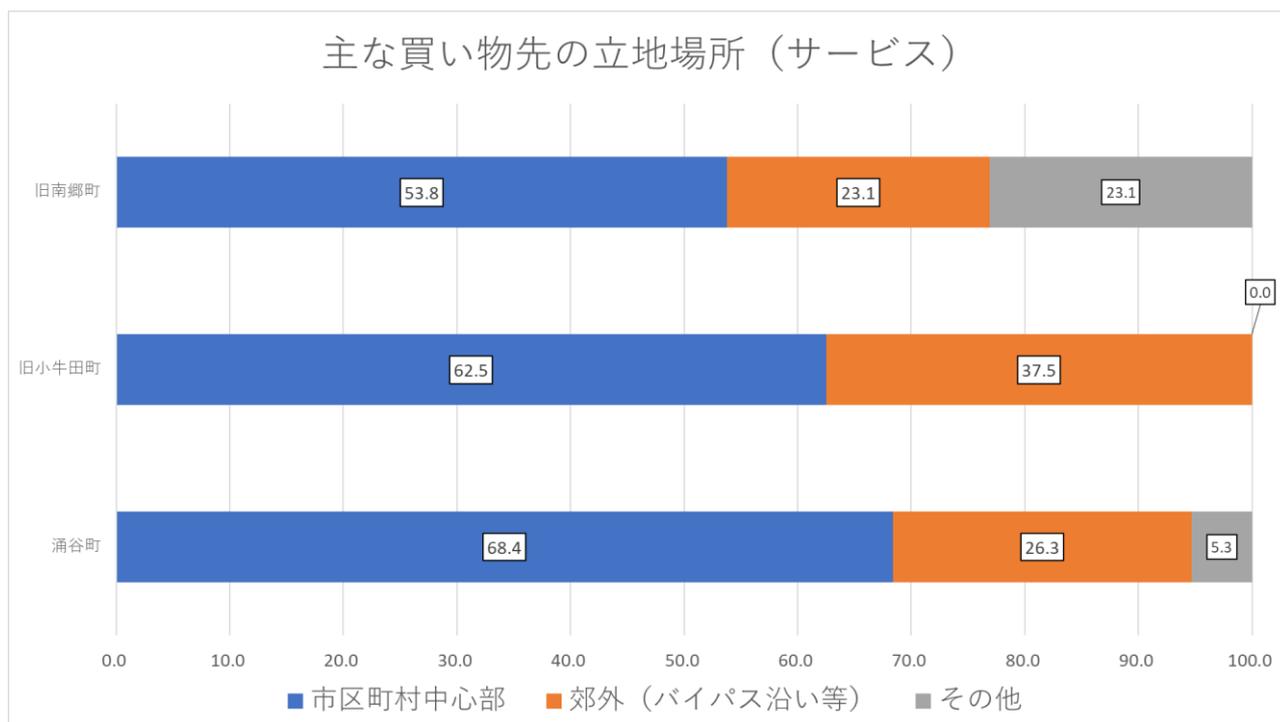
最寄品においては、全てのエリアにおいて食品スーパー、百貨店・総合スーパーと回答した方が多く、立地場所についても、市区町村中心部が半分以上を占める。

1-2. 買回品



買回品については、全てのエリアにおいて大型専門店・量販店、百貨店・総合スーパーと回答した方が多い。立地場所については全てのエリアにおいて市区町村中心部が多くなっている。

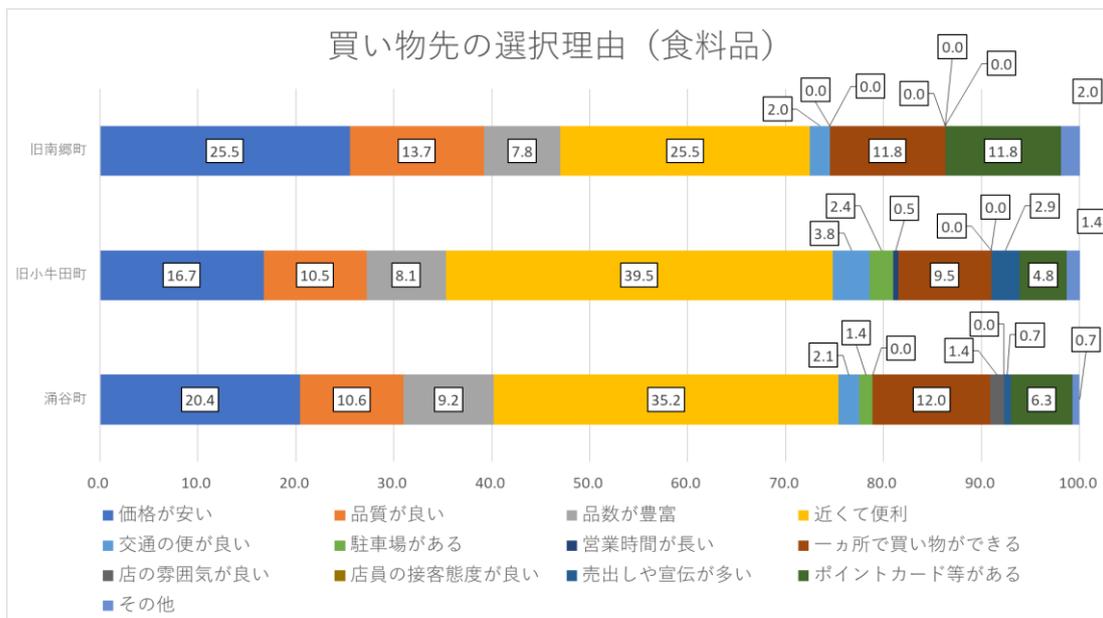
1-3. サービス



サービスにおいては、全てのエリアにおいて市区町村中心部と答えた方が大半を占めている。

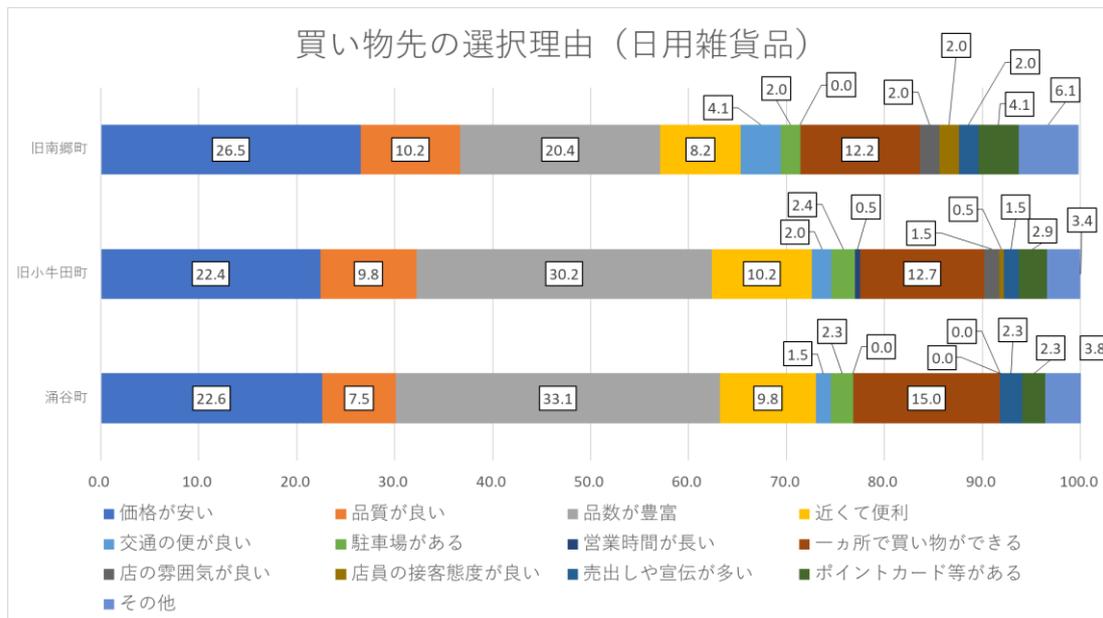
③買い物先の選択理由

2-1. 食料品



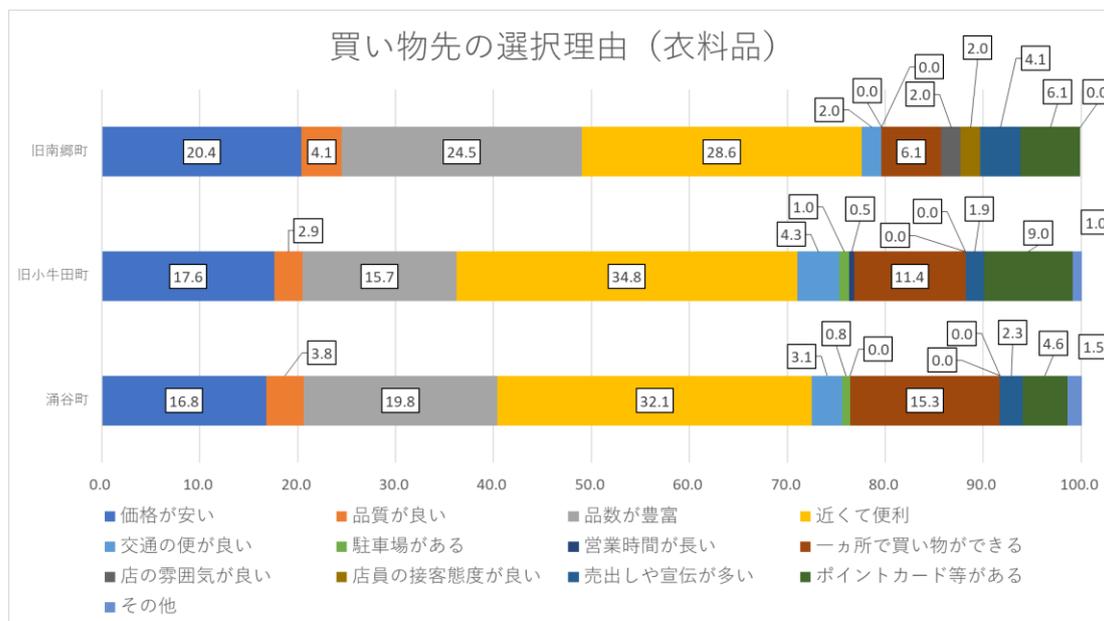
食料品については、全てのエリアにおいて近くて便利、価格が安いことを重視する傾向がわかる。

2-2. 日用雑貨品



日用雑貨品については、旧南郷町エリアでは価格が安いことを重視する傾向があるが、旧小牛田町、涌谷町においては、価格の安さより、品数が豊富であることを重視する傾向が読み取れる。

2-3. 衣料品

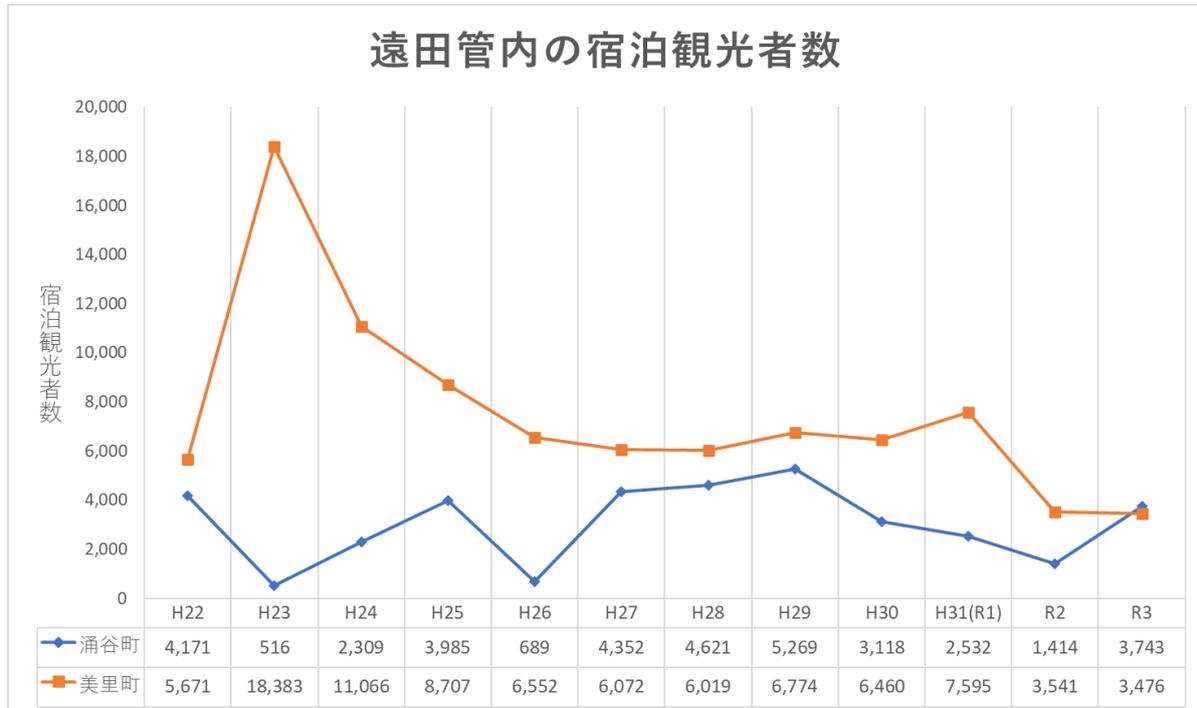


衣料品については、全てのエリアにおいて近くで便利であることを重視する傾向にある。

第3部：遠田商工会管内の観光動向

①遠田管内の宿泊観光者数

遠田管内における宿泊観光者数はあまり多くない。令和2年度は新型コロナウイルスによる外出自粛の影響か、両町ともに減少傾向にある。なお、美里町における平成23年の宿泊観光者数が突出しているのは、同年に会津美里町も参加して行われた「美里町物産観光復興祭2011」が開催された影響だと考えられる。



(出典：宮城県経済商工観光課 観光統計概要 R3年)

②遠田管内の主要観光スポット入込者数

遠田管内の主要観光スポット入込者数はそれほど多くはない。しかし令和2年に新型コロナウイルスの影響で入込者数がどの観光スポットにおいても減少傾向にあったが令和3年には回復してきている。また、美里町南郷地区の「花野果市場」は管内において最も入込者数が最も多く、新型コロナウイルス感染拡大が始まった令和2年以後においても安定した客足となっている。

町名	施設名	入込者数		
		H31(R1)	R2	R3
涌谷町	城山公園	4,944	1,833	2,342
	涌谷町くがね創庫	192	23	1,645
美里町	農産物直売所「花野果市場」	253,484	255,152	243,803
	でんえん土田畑村	4,921	2,187	2,515

(出典：宮城県経済商工観光課 観光統計概要 R3年)